



スケトウダラ（根室海峡）①

スケトウダラは北太平洋に広く生息し、本評価群はこのうち根室海峡で漁獲される群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。

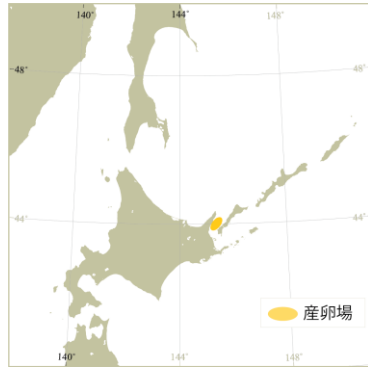


図1 分布域

本資源は北方四島水域やロシア水域などに跨って分布する。日本漁船の操業水域には主に産卵期に来遊すると考えられる「跨り資源」である。

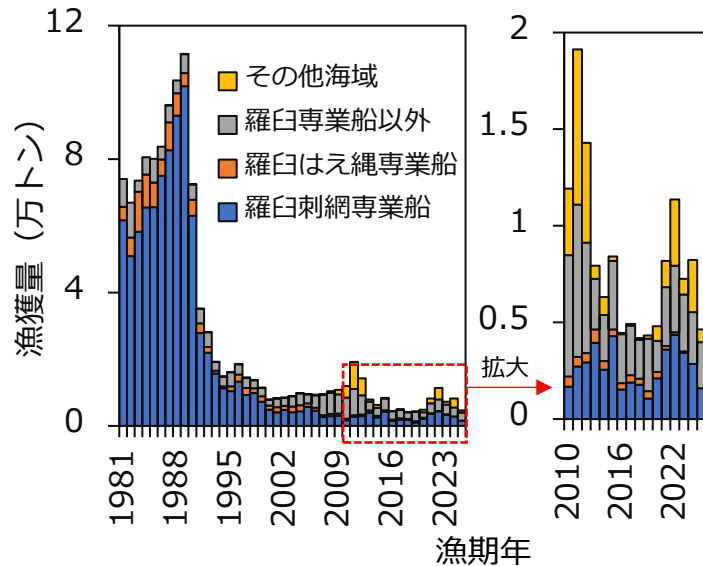


図2 漁獲量の推移

漁獲量は1990年漁期から急激に減少した。2016～2020年漁期は0.4万トン台に低迷したが、2022年漁期には1.1万トンまで増加した。その後は減少して2025年漁期は0.5万トンであった。

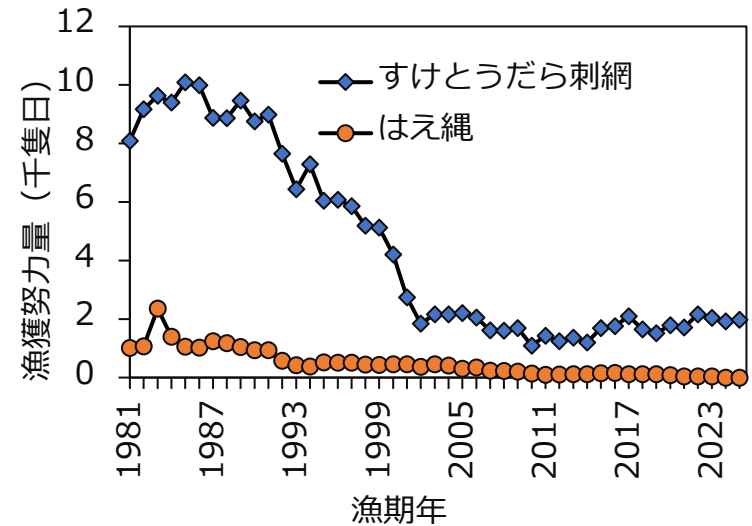
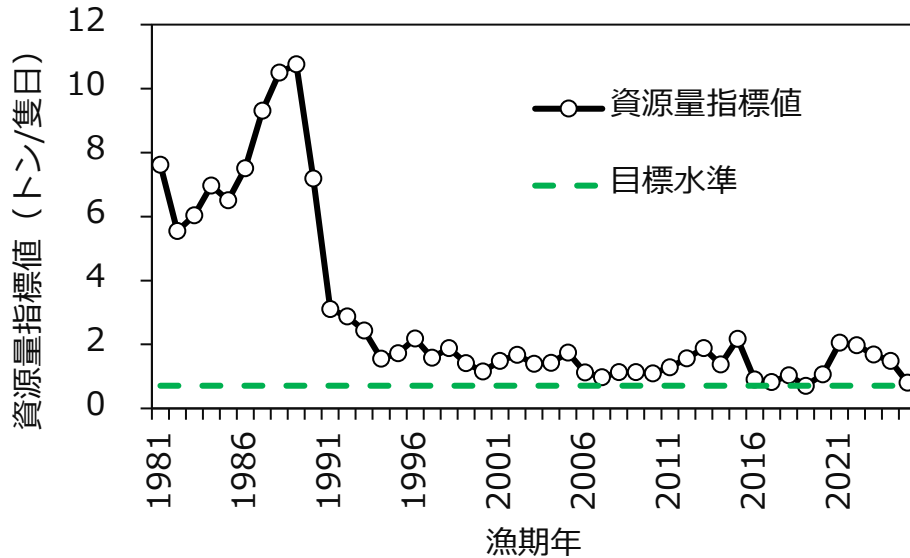


図3 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は、すけとうだら専業の固定式刺網漁業では2002年漁期まで大きく減少してその後はほぼ横ばいで推移した。はえ縄漁業では1983年漁期を最高にその後減少し、2024年漁期以降は操業していない。隣接水域におけるロシア漁船の漁獲量・漁獲努力量は不明である。

スケトウダラ（根室海峡）②



本資源の漁獲シナリオについて

本資源は主分布域が日本漁船の操業水域になく、日本漁船からの情報のみでは「跨り資源」である本資源全体の動向を捉えることができないことから、「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。

現行の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。

図4 資源量指標値と目標とされる水準

羅臼地区のすけとうだら専業の固定式刺網漁業による延べ出漁隻数当たり漁獲量を資源量指標値とした。2002年漁期以降はブロック操業*のデータを除いた。

本資源の資源管理方針では、資源量指標値の1981～2024年漁期の最低値（0.71トン/隻日）を、維持または回復させるべき目標と定めている。

2025年漁期の資源量指標値（0.80トン/隻日）はこの水準を上回った。

*ブロック操業とは漁獲圧軽減による資源保護と操業コスト削減を目的として、複数の経営体がグループを作り、グループ内の1隻が交互に休業する操業形式。